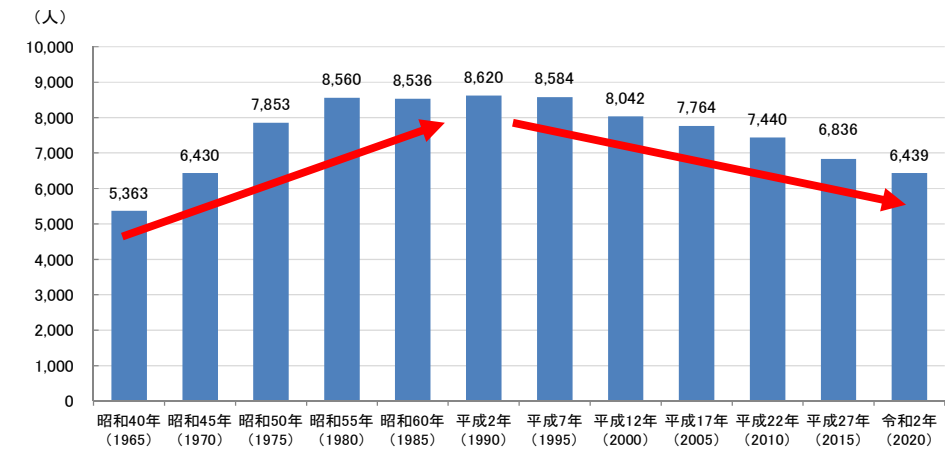


町の主な現状と課題

1 町の概況(統計調査等)

(1)人口の推移

- 人口は平成 2(1990)年をピークに減少傾向。
- 平成 2(1990)年から 30 年間で約 2200 人減少。

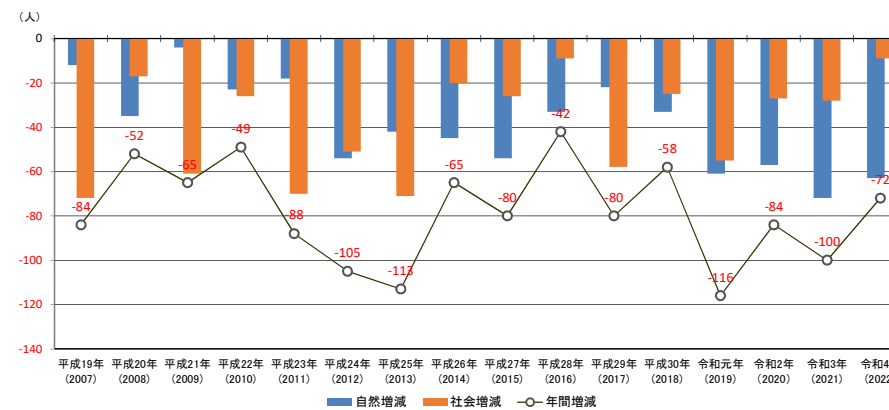


資料:総務省「国勢調査」

人口の推移

(3)人口の推移

- 平成 25(2013)年までは転出超過が多く、令和 2(2020)年以降は概ね自然減が突出。

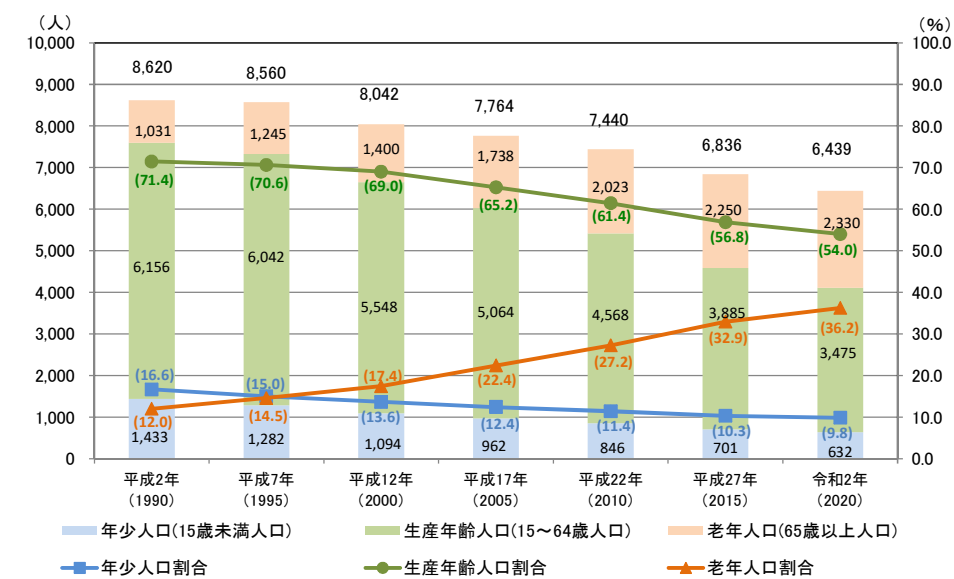


資料:総務省「住民基本台帳人口移動報告書」

人口動態の推移

(2)年齢 3 区分人口の推移

- 30 年間で生産年齢人口(15～64 歳)は 2,700 人減、老年人口(65 歳以上)は約 1,300 人増。

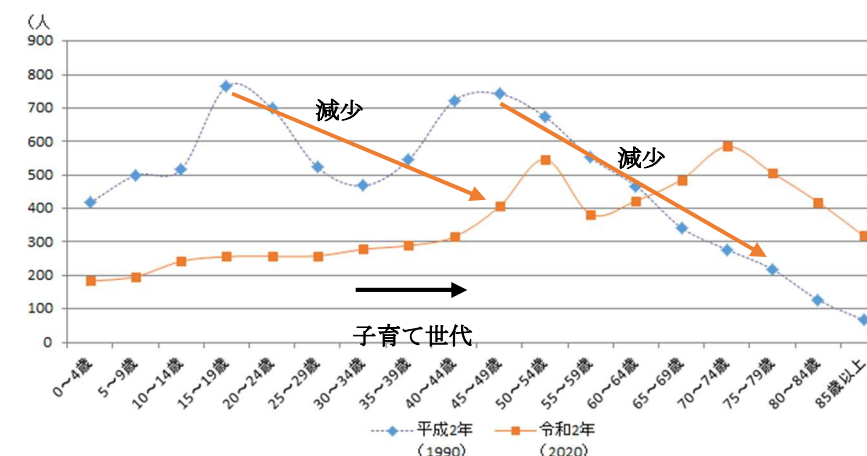


資料:総務省「国勢調査」  
注:総数には年齢不詳を含む

年齢 3 区分人口の推移

(4)人口移動の推移

- 平成 2(1990)年の 15～19 歳は 765 人で、30 年後の令和 2(2020)年には半減(406 人)。
- 子育て世代(30 歳～44 歳)は平成 2(1990)年で約 1,700 人、令和 2(2020)年では約 900 人。

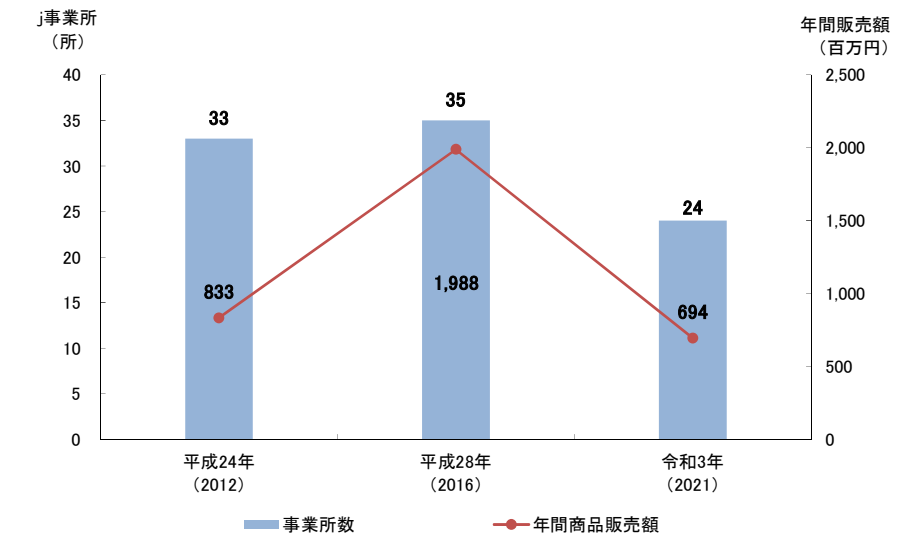


資料:総務省「国勢調査」

人口動態の推移

(5)小売業の推移

- 小売業事業所は平成 28(2016)年から 11 事業所減、年間商品販売額は大きく減少。

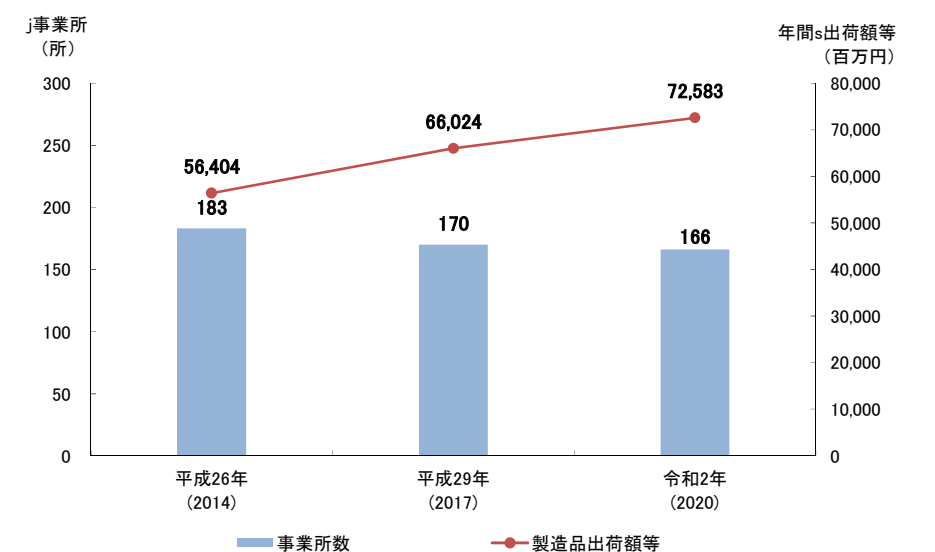


資料:経済産業省「経済センサス調査」

小売業の推移

(6)製造業の推移

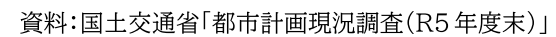
- 製造業事業所は平成 26(2014)年から 17 事業所減、年間製造業出荷額等は増加傾向。



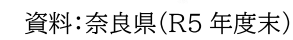
資料:「経済産業省工業統計調査」

製造業の推移

○幹線街路の改良率は48.8%で県平均58.0%を下回る水準。

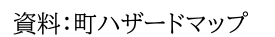


○汚水処理人口普及率 97.4%で県平均 83.4%を上回る水準。



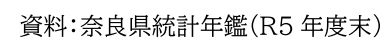
污水处理人口普及率

○洪水浸水区域想定区域(想定最大規模)は、町西北部に垂直避難が困難な区域(浸水深 3m以上)が存在。



洪水ハザードマップ

○町民一人当たり都市公園整備面積は公園 4.79 m<sup>2</sup>/人で、磯城郡では同程度の水準。



都市公園の整備面積

医療施設の人口  
 カバー率は**やや低い**  
 (800m 圏域)

商業施設の人口  
 カバー率は**やや低い**  
 (800m 圏域)

持続可能な都市経営  
 の指標である地価や  
 財政等は全国平均と  
 比べて同水準

生活サービス施設の  
 徒歩圏人口カバー率  
 医療施設徒歩圏(800m) [%]  
 生活サービス施設の  
 利用圏平均人口密度  
 医療施設徒歩圏(800m) [人/ha]  
 生活サービス施設の  
 徒歩圏人口カバー率  
 福祉施設徒歩圏(800m) [%]  
 生活サービス施設の  
 利用圏平均人口密度  
 福祉施設徒歩圏(800m) [人/ha]  
 高齢者福祉施設の  
 中学校圏域  
 高齢人口カバー率  
 福祉施設(1,000m)※65歳以上 [%]  
 保育所の徒歩圏  
 0～4歳人口カバー率  
 保育所徒歩圏(800m)※0～4歳 [%]  
 生活サービス施設の  
 徒歩圏人口カバー率  
 商業施設徒歩圏(800m) [%]  
 生活サービス施設の  
 利用圏平均人口密度  
 商業施設徒歩圏(800m) [人/ha]  
 日常生活サービスの  
 徒歩圏充足率  
 日常生活サービス徒歩圏 [%]  
 生活サービス施設の  
 利用圏平均人口密度  
 商業施設徒歩圏(800m) [人/ha]  
 日常生活サービスの  
 徒歩圏充足率  
 日常生活サービス徒歩圏 [%]  
 従業者一人当たり  
 第三次産業売上高  
 売上高/従業者数  
 平均住宅地価  
 (居住を誘導する区域)  
 平均住宅地価(市街化区域)  
 市民一人当たりの税收額  
 一人あたり歳出額 [千円/人]  
 財政力指数 [-]  
 生活サービス施設の  
 徒歩圏人口カバー率

偏差値50ライン(全国)  
 三宅町  
 広島市  
 田原本町  
 川西町  
 河合町  
 上牧町  
 王寺町

資料：国土交通相「モニタリングシート」

2 都市づくりの主要課題

町の主な現状	
人口	○人口は平成 2(1990)年をピークに減少傾向。 ○30 年間で生産年齢人口(15～64 歳)は 2,700 人減、老年人口(65 歳以上)は約 1,300 人増。 ○平成 25(2013)年までは転出超過が多く、令和 2(2020)年以降は自然減が突出。 ○子育て世代(30 歳～44 歳)は平成 2(1990)年で約 1,700 人、令和 2(2020)年では約 900 人と約 800 人が減少(田原本町、奈良市、天理市への転出が多い)
産業	○小売業事業所は平成 28(2016)年から 11 所減、年間商品販売額は大きく減少。 ○製造業事業所は平成 26(2014)年から17所減、年間製造業出荷額等は増加傾向。
土地利用	○都市計画区域人口に対する市街化区域人口割合は約 92%(R2 年)、人口密度は約 38 人/ha(H27 年)から 43 人/ha に増加し、コンパクトな市街地を形成。 ○石見駅周辺の県有地活用について、県で検討中。 ○町域の民有地(R5 年)は農地が約 55%、宅地が約 36%。経営耕地面積は H27 年から R2 年の 5 年間で約 6ha 減少。
道路交通	○町東側を南北に京奈和自動車道(三宅 IC)と国道 24 号バイパスが整備され、これらにアクする(都)大和郡山川西三宅線は事業中。 ○町内のネットワークを形成する幹線道路が整備されておらず、幅員の狭い生活道路が多い。 ○町内には近鉄橿原線石見駅と田原本線但馬駅の2駅が設置されており、隣接する川西町の結崎駅、田原本町の黒田駅も徒歩圏。 ○R4 年度の年間鉄道乗車人員は石見駅が約 35 万人、但馬駅が約 11 万人で、石見駅は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、但馬駅は減少傾向が継続。 ○町内でバスは運行されておらず、町ではタクシーの利用料補助を申請交付。
都市基盤	○都市計画道路は 4 路線で、このうち幹線街路の改良率は 48.8%で県平均 58.0%を下回る水準。 ○町民一人当たり都市公園整備面積は公園 4.79 m <sup>2</sup> /人で、磯城郡では同程度の水準。 ○汚水処理人口普及率 97.4%で県平均 83.4%を上回る水準。
住宅	○持家率は 83%(R2 年)で、川西町、田原本町を上回る。 ○空き家が増加しており、町では老朽危険空き家解体補助金を申請交付。
防災	○洪水浸水区域想定区域(想定最大規模)は、町西北部に垂直避難が困難な区域(浸水深 3m以上)が存在。
自然文化	○飛鳥川・曾我川・寺川の肥沃な流域に拓けた田園地帯。 ○周濠を持つ前方後円墳の遺跡が町内に数多く存在。 ○聖徳太子ゆかりの「太子道」が南北に通る、条理制の名残が広範囲にみられる。 ○霊峰金剛・葛城の山並みの眺望。環濠集落や社寺林などの歴史景観や、河川、ため池の水辺景観、田や畑の田園景観が形成されている。
環境保全	○二酸化炭素排出量の合計は、2 万 5 千トン-CO <sub>2</sub> で磯城郡 3 町で最も少ない。 ○ごみのリサイクル率は 14.4%(R4 年)で県平均とほぼ同様。
町民意向	○「住み続けたい」は R7 年調査で約 54%、H28 年調査から約 11 ポイント増、「住み続けたくない」は約 10%で、約 7 ポイント減。 ○町の住みやすさは、「愛着を感じるところ」と「自然環境が良いところ」が突出。 ○人口減少・少子高齢化に影響は、空き家の増加や地域の担い手の減少、財政負担を懸念。 ○「コンパクトに集約したまちづくりの必要性は、“どちらかと言えば必要”を含む必要な意向が 5 割を超えているが、“わからない”も約 26%と多い。 ○防災の取組は、洪水対策や避難体制の確保等が求められている。 ○防災情報に周知は、洪水ハザードマップ、避難場所の認知度が高い一方、安心・安全メールや自主防災組織の活動の認知度が比較的低い。 ○自由意見では、特に商業施設等(施設の確保等)に対する意見が多い。

上位計画

三宅町総合計画(平成 30(2018)～令和 9(2027)年)

【基本理念】

- ①つながり、支え合い、安心できるまちをめざす
- ②出会い、高め合い、豊かな交流のあるまちをめざす
- ③郷土愛を育み、未来への希望を創造するまちをめざす

【将来像】

～万葉の花、あざさが咲き誇る～  
慈愛の風薫り、未来に光射す きらめきのまち、みやけ

大和都市計画及び吉野三町都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針  
(令和 4(2022)年～令和 12 年(2030) 年)

【県の都市づくりの方向性】

- ①特徴ある魅力を活かし風格と美しさを高める都市づくり
- ②ライフステージごとに元気に暮らすことができる都市づくり
- ③持続的な発展を可能とする環境共生型の都市づくり
- ④地域の活力を創造し育む都市づくり
- ⑤安心・安全な居住環境と強靱さを備えた都市づくり
- ⑥住民と行政の共創による都市づくり



都市づくりの主要課題(骨子案)

(1)持続可能な都市構造の再構築	①生活サービス施設等の確保と都市機能・交通の広域連携 ②三宅 IC 及びアクセス道路を活かした産業用地の確保 ③未利用地(石見駅周辺県有地)の有効活用
(2)定住環境の充実	①移動環境の改善 ②生活環境・居住環境の充実 ③安全・安心の確保
(3)地域資源を活用した魅力の向上	①自然・歴史文化の保全・活用 ②環境保全の推進 ③良好な景観の保全・創出